

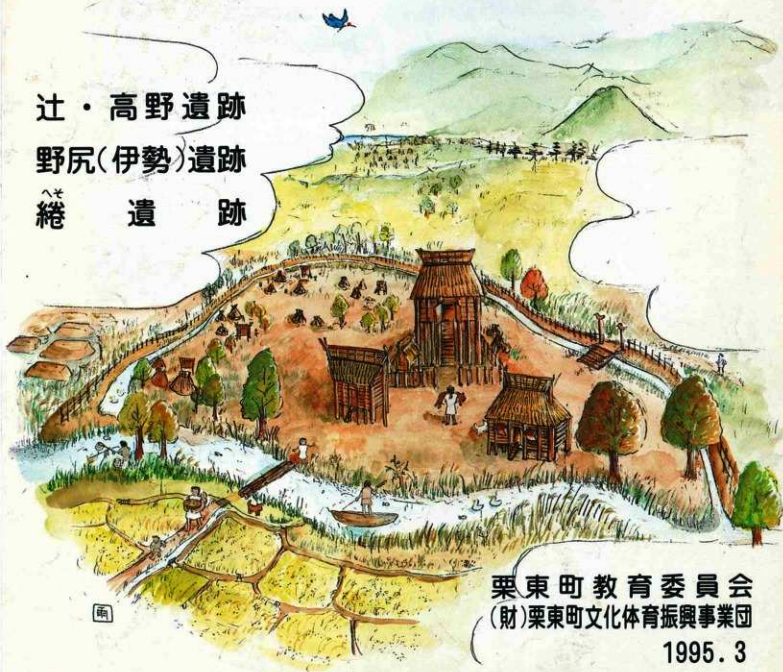
はっくつ'94

— 栗東町話題の発掘調査 —

辻・高野遺跡

野尻(伊勢)遺跡

へせ
縄 遺 跡



栗東町教育委員会
(財)栗東町文化体育振興事業団

1995. 3

縄文時代から 江戸時代以降の 複合遺跡

— 辻・高野遺跡 —



栗東町大字高野地先において、1994年5月から行っています土地区画整理事業にともなう第2次調査では、縄文時代から江戸時代以降までの遺構、遺物がみつかりました。

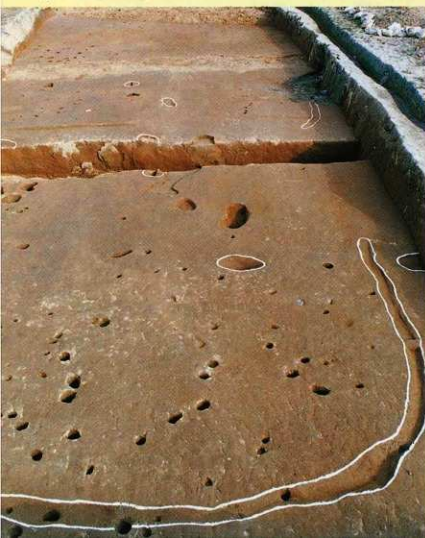
縄文時代では、狩猟や漁労のために使用されたキャンプ地と思われる跡がみつかりました。テント的な建物にともなうと思われる穴や、壁溝らしきものをはじめ、採取した木の実を貯蔵しておく穴がみつかりました。遺物としては、縄文土器や狩猟に使う石のやり、漁労用の網に付ける石のおもり、調理に使う石の皿、木の実をすりつぶす石などがみつかりました。

一方、古墳時代から平安時代を中心とする川が、長さ150m、幅10m以上にわたってみつき、たくさんの土器や木器がみつかりました。なかでも平安時代においては、役所やお

▲川の中からみつかった平安時代の木製品

寺でみつかることの多い貴重な緑釉陶器の小壺や、板の両端に三角形の切り込みを左右に2ヶ所ずつ入れた、全国的にもめずらしい木製品がみつかりました。この木製品は何に使用したのか、はっきりしていませんが、水辺の祭(わざわいや病氣などを祓う祭)に使用されることの多い道具(燃えさし、ヤスや刀の形をした木製品、桃の種など)が同時にみつかることから、祭の道具のひとつとして使用されていたことが考えられます。緑釉陶器の小壺や水辺の祭跡の存在は、近くに有力な氏族が存在していたことを証明する重要な資料です。

縄文時代のテント的な建物か？▼



縄文人の漁労・狩猟
採取のようす



入母屋造りの 大型建物跡を発見

野尻・
伊勢遺跡



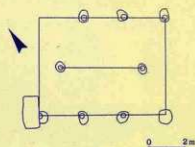
▲発掘調査中の建物跡



◀石の詰まった柱穴の断面



◀建物復元図と建物跡の平面図



この大型建物跡は野尻遺跡の北端、守山市に接する位置で見つかりました。ここは、守山市域を中心として東西700m、南北400mに広がる弥生時代後期の大集落である伊勢遺跡の一部にあたります。

建物の規模は、桁行3間(6.9m)、梁行1周(5.3m)で平面積36.6㎡(約23畳)になります。柱穴は55～65cmのいびつな楕円形で、深さ65cm、柱の痕跡は直径25cm、そのうち4ヶ所にヒノキの木片が残っていました。柱穴には柱を安定させるためか、直径4～10cm程の河原石が詰め込まれており、さらに根固めのためか、柱穴の底に粘土を貼ったものもあります。柱穴からは土器の破片が数十点出土していて、

それらは弥生時代後期後半(西暦200年頃)に使われていた甕や甕・高杯などでした。

この大型建物は柱の大きさなどから高床式の建物と思われ、また屋根の形は屋内にある2本の横持柱の位置から、入母屋造りに復元することが出来ます。

伊勢遺跡ではこれまでに、祭祀や政治に関わる大型建物がいくつか発見されていますが、この建物も同じように重要な役割をするものであったと思われます。

中世の屋敷跡が出土

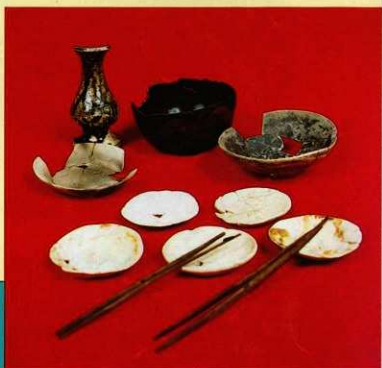
— 絶
遺
跡 —



栗東町大字北中小路では、13～14世紀（鎌倉時代）の屋敷跡が発掘された。屋敷跡には、掘立柱建物や、それを取り巻く溝、水を汲んでいた井戸などがあります。

井戸や溝のあとからは、当時使われていた碗・皿・箸などの食器類や、煮炊をする鍋・釜、暖をとるための火鉢、仏具である花瓶などがみつき、中世の生活がよみとれます。

今回調査した地点を含む、北中小路・絶一帯には、こうした中世集落が広がっており、絶遺跡とよばれています。



パンフレットの作成は、近藤広、雨森智美、佐伯英樹が行い、松村浩、藤原恵美の協力を受けた。

はっくつ'94 栗東町話題の発掘調査

発行日 1995年3月31日

編集・発行 (財)栗東町文化体育振興事業団
滋賀県栗東市栗東町川辺390-1 〒520-30
TEL 0775-53-4321
FAX 0775-53-4379

印刷・製本 大津紙業写真印刷株式会社